

物語の舞台を訪ねて

『辺境の館』 - マルケゼス・デ・フロンテイラ宮殿(リスボン)

モンサント森林公園の北にあるこの宮殿は、初代フロンテイラ侯爵ジョアン・デ・マスカラーニャスによって1670年に狩猟のための館として建てられ、現在も侯爵の子孫が住んでいる。ガイドブックの類には載っているが、パッケージ・ツアーが訪れるポイントにはなっていないので、団体客が押し寄せることもなくひっそりとしている。だからといって訪れる価値が少ないのかといえばそうではなく、時間を限っての公開になっているのがネックになっているのではと思われる。



この宮殿を一躍有名にしたのが、1992年出版の写真集 "La frontière" である。この写真集にはパスカル・キニャールの小説が付されていて、その2年後に小説のみがガリマール社から文庫版で出版される。『辺境の館』はこのガリマール版を底本にした訳本である。

新聞の書評などではポルトガル版「阿部定物語」と紹介されたが、ポルトガル文学ではない。ヒロインは夫殺しの犯人に衣服盛って局部を切断し、気絶した男の口に切り取った睾丸をぶち込んで逃走するものすごい女である。恋人の裏切りを知って失神し、そのままはかなくなってしまうようなかよわいタイプの女性が多いポルトガル文学には、こういった復讐譚はありそうにない。

キニャールはフロンテイラ邸のバロック庭園を飾るアズレージョ(彩釉タイル画)にインスピレーションを得てこの作品を書いたそうであるが、現実のフロンテイラ宮殿を訪れてみて、あの庭を見てあれだけ妄想を炸裂させることができるフランス人って別の意味ですごいと思う。

"A fronteira" Pascal Quignard (Quetzal Editores) 721.2-Qui

『辺境の館』パスカル・キニャール著(青土社)953-Qui

(情報サービス課 中間 ゆみ)

ご存じですか?

『講義概要』に
示された参考文献



今回は本学図書館が作成し、提供しているデータベース「『講義概要』に示された参考文献」を紹介し、本学の教務部が作成した『講義概要』には各教員の授業内容、教科書、参考文献などが記載されています。学生の皆さんはこれを参考に単位登録を行い、自身が履修する科目を決める事になります。

このページは教務部の協力を得て、『講義概要』に記載されている授業の「参考文献」を実際に図書館が収集し、その書誌記述をデータベース化したものです。今まで図書館で参考文献を検索する際には「総合目録データベース」で書名や著者などを自身で入力して検索をしなければなりません。しかしこのデータベースを利用すればそ

のような手間をかけずに資料の検索を行うことができます。ページ構成は「大学院」、「専攻科」、「外国語学部」、「短期大学」からなり、さらにその中で科目毎に分けられています。各科目名、教員名ごとに該当する参考文献データがリンクされていてそのタイトルをクリックするだけで詳細なデータが得られるようになっています。貸出に関する情報も記載されているので、万が一求める文献が貸出中であっても文献がいつ頃返却されるのかを知ることができます。学内からはもちろん学外からのアクセスページも設けていますので、自宅やインターネットカフェなどで勉強している時にも利用していただけます。

「参考文献」はその名が示すとおり、各講義においてとても重要な文献です。このデータベースを活用して効率よく書誌情報を得ていただければ幸いです。

(機械化推進委員会委員長 宮杉 浩)